

新居浜校区まちづくり懇談会 開催結果報告書

開催日時 平成26年8月11日(月) 19:00~20:15
場所 新居浜公民館
参加者数 男31人 女9人 合計40人



1. 連合自治会共通の市政課題

事例報告名 (地域振興事業 新居浜市営野球場を使って地域が元気に！

新居浜校区を盛り上げよう「観月会&一夜限りのキャンドルアート」)

報告・発表・討議等の内容(要約)

平成26年度の地域コミュニティ新居浜校区まちづくり推進委員会活動について報告。
5月18日に校区運動会(約1,000人の参加)、6月14日に三世代交流ウォーキング(マリンパーク、黒島公園などをウォーキング)、6月25日~28日(3泊4日)にワクワク通学合宿(今年で4年目)、7月に自治会対抗ソフトボール大会(単位自治会での対抗戦)、8月1日~4日(3泊4日)に福島キッズ受入れ「こどもの絆プロジェクト」(19人参加)、9月9日には、観月会&一夜限りのキャンドルアート、9月28日に校区防災訓練、11月に文化祭、自治会対抗ソフトバレーボール大会、12月には、もちつき、しめ縄、凧づくり。そのほか、運審会を年に5回、シニアネットワーク(65歳から70歳くらいの人を対象にボランティアなどの活動を実施)、エンゼルっ子などこのような活動を実施することとしている。

組織構成としては、平成21年4月から新居浜公民館が地域主導型公民館としてスタートし、新居浜校区まちづくり推進委員会が中心となり、地域のまちづくり、校区を元気に

盛り上げようということで頑張っている。新居浜校区運営審議会委員が20人、校区の単位自治会長8人を初め、女性の会、広報部、文化部、健康体育部、愛護班、民生児童委員で構成。そして、新居浜校区運営審議会協力委員が50人、各校区役員、小学校PTA、北中学校PTA、地域ボランティアなどで構成。

観月会&一夜限りのキャンドルアート開催のきっかけだが、「新居浜校区の地域力を活用し、これからの社会を担っていく子どもたちと共に地域の宝を生かした活動はどのような事業が良いのか」、「2世代・3世代交流を目的とした地域振興とはどのようなことができるのか」、「地域の中間年齢層を中心とした組織づくりとは」など、みんなで熟議した結果、観月会&一夜限りのキャンドルアート開催となった。

キャンドルアートは、新居浜校区の機運を高め、やさしい炎に皆さんの心が癒され、日々の感謝の気持ちを込めて秋空のグラウンド内に1万個のキャンドルを灯しますということを目的としており、図柄は、新居浜太鼓台の布団締めの上り龍を絵柄としている。

昨年度の活動内容としては、平成25年9月19日に地域の財産である「市営野球場」を使用して、「観月会&一夜限りのキャンドルアート」をろうそく1万個を使用して実施した。実行委員会開催（8回）、新居浜校区まちづくり推進委員会を中心とした組織づくり、平成25年7月21日には双海シーサイド会場見学及び研修、また、新居浜工業高等専門学校と地域との連携ということで、キャンドルの図柄がどうすればうまくできるか、その図柄に対してどれくらいのろうそくが必要かなど、いろいろなことを一緒になって検討した。それと新居浜小学校は、昨年創立140周年記念ということから、何か児童の思い出になるようなことはできないか、地域と一緒に残った心に残るようなことはできないかなど、また、会場内で東北を支援する募金活動を実施した。

次に、キャンドルアート開催までの作業スケジュールは、9月10日～9月17日の間、10時から2時間程度、新居浜公民館でキャンドル作成。9月18日9時から備品確認、17時からキャンドルアート下絵書き、高専の生徒も一緒に、暗くなってからプロジェクターでグラウンドに図柄を投射しライン引きをした。18時からテント張りなどの会場設営。当日の19日は、9時からキャンドル運搬、13時からキャンドルを並べ、18時からキャンドルに点火した。

次に、昨年度の事業成果と事業による地域への波及効果については、中間年齢層を中心とした組織がつくられ、事業に取り組む姿勢がとて前向きになった。そして地域の宝「市営野球場」を利用する事により、住民の地元愛、連帯意識が生まれた。また、市営野球場を管理している人からも、スポーツ、特に野球をしている人しか来ないが、子どもから高齢者までが訪れて市営野球場を見ていただくことができたという意見をいただいた。そして、実行委員会の回数が増すごとに参加・協力人数が増加し、一人一役を決めることで責任感が持たれ、リーダー育成にもつながった。各地区の青年団にも呼びかけ参加していただいた。また、この事業に参加した人たちは地域活動にも積極的になり、新たな人が公民館を訪問している。三世代交流事業にも、これまで来られなかった人の参加があった。

次に、事業の実施に当たっての課題・問題点だが、昨年の9月19日は非常に良い天気だったが、屋外イベントのため天候次第である。また、参加人数が予想より大幅に増えたため準備物が不足した。イベント時のごみ処理は計画どおりに行ったが、市営野球場の2階トイレの掃除ができてなかったため苦情があった。そして広報が行き届いていなかった。文部科学省からのGOサインが遅く、イベントに必要な材料も決定されるまで買えなかった。

今後も「地域が元気に!」、今年度つくられた中間年齢層をリーダーとした組織を中心として、住民が地域の良さを再認識し、次の新しい地域振興事業へとつなげたいと考えている。

最後に、8月1日から4日までの3泊4日、福島の子どもたちを新居浜公民館に迎えた「絆プロジェクト」について報告する。思い出を豪快にということで公民館に迎え、1日目の夕食は、鯛めしと芋炊きで歓迎会を開催した。

2日目は、マンダリンパイレーツの交流試合を観戦する予定だったが、雨天のため、新居浜小学校体育館で新居浜小学校の児童とマンダリンパイレーツの選手、けん玉名人の中村さんと交流をした。昼食は、新居浜小学校の児童と一緒に、ちらし寿司、じゃこ天、鯛の吸い物を食べ、夕食も新居浜小学校の児童と一緒に、そうめん流しをして交流を深めた。夕食後は、市内のダンスチームと一緒に踊ったり、花火などを行った。

3日目は、マリパークで海水浴などをする予定だったが雨天のため中止し、総合科学博物館へ行った。昼食はバーベキューをして楽しみ、午後からは、新居浜の夏まつりだったので太鼓台にも乗せてもらい、また、商店街連盟にもお願いをして、本部席の横に栈敷席を用意し夏まつりを見てもらった。

4日目の朝、子どもたちを送り出した。子どもたちが笑顔で来て、笑顔で送り出せたことが何よりで、「またいつか遊びに、秋祭りも見に来んかいよ」ということで送り出すことができた。

※再検討事項 (なし)

2. 校区の課題

課題名 (自彊舎跡地の利活用について)

質疑応答 (要約)

[質問]

自彊舎跡地を今後どのように活用するのか。スケジュール等を含めて、分かっている範囲で伺いたい。

[回答] (企画部長)

自彊舎跡地の利活用について、「自彊舎」は大正元年に鷺尾勘解治先生が旧別子に私塾として開設し約100年の歴史がある。昭和33年に菊本に活動の拠点を移し、鷺尾先生が亡くなられた後も志を継ぐ方々により引き継がれ、皆さんが慣れ親しんだ拠点である。昨

年、「自彊舎記念会」として活動を続けていた組織が解散し、市へ土地も含め、鷺尾先生が描いた書画などの財産を寄附していただいた。市としても、鷺尾先生の功績、自彊舎の歴史を将来にわたって長く伝えたいということで、皆さんが慣れ親しんだこの場所に記念碑を設置し、継承したいと考えている。

現在は、鷺尾先生の胸像と句碑、植栽の一部を残し更地になっている。今年度、この跡地を整備する費用を予算化しており、現在は、その整備のための測量設計をしている。工事については、9月あるいは10月には着工したいと考えている。

整備のイメージは、胸像と句碑については西側の中央部に設置する。記念碑の石碑を西南側に設置、また、来られた方がこの場所の由来が分かるように、自彊舎や鷺尾先生の説明版を設置する。敷地全体については、雑草対策もあることからカラー舗装を考えているが、中央部には、現在広瀬歴史記念館に保管している共存・共栄橋の橋柱を設置して、橋をイメージしたモニュメントにしたいと考えている。また、北側は駐車場にしたいと考えている。それと、ベンチも配置したいと考えており、地元の皆さんのポケットパーク的な感じの憩いの場の一つとして活用していただきたいと思っている。

鷺尾先生の書画や資料等については、広瀬歴史記念館に保存する。今年の6月から7月にかけて山田社宅で鷺尾先生の企画展を開催したが、今後も山田社宅で企画展を開催し、市民の皆さんに見ていただきたいと思っている。

【質問】

最近、夏場は日差しがきついで、屋根の付いた東屋、水飲み場、胸像のところにスマホで読み取れるデータの埋め込みができれば、訪問した人がいろいろな資料を見ることができる。そんなものを工夫したらどうか。

【回答】（企画部長）

水飲み場については、水栓も設置するので対応可能だと思う。スマホ対応、東屋については、予算の範囲内で可能であれば考えたい。

【質問】

電柱が見当たらないが照明はあるのか。

【回答】（企画部長）

防犯上照明は必要だと思うので、そのあたりも含め検討したい。

※ 再検討事項 （なし）